

みなみっ子だより

コツコツと努力する一年にしよう


新年あけまして おめでとうございます。まだまだ新型コロナウイルス感染症が収まらない中で今年の新年でしたが、皆様はどのように新年を迎えられましたでしょうか。久しぶりに学校に登校した子どもたちからは、ふだんの「おはようございます」に加えて、「あけましておめでとうございます」と、新年のあいさつをしてくれる子もいてとてもうれしく思いました。教室の黒板には、担任たちからの熱いメッセージもあり、「よし、今年もがんばるぞ!」という意気込みが学校全体にみなぎっています。それぞれの教室では、担任の今年一年の抱負を伝えたり、一人ひとりの3学期の目標を考えたり、冬休みのことを紹介し合ったり、係決めをしたり、一人ひとり書いた「かきぞめ」を鑑賞したりしていました。笑顔いっぱいの子もたちに出会って「教室」も嬉しそうです！私自身も、子どもたちから元気とやる気をもらいました。みなみっ子の子どもたちは、新しい年も笑顔と優しさにあふれています。

さて、今年は丑年。「牛」は日本では昔から荷物を運ぶための労働力として、人の生活に欠かせない大切な動物でした。勤勉によく働くその姿が「誠実さ」を象徴し、縁起の良い動物とれています。地道に最後まで手伝ってくれる様子から、丑年は、先を急がずコツコツと努力し着実に物事を進めることが大切な年と言われています。4月から中学校という新しい世界に飛び立つ6年生はもちろんのこと、年のはじめにあたり、子どもたち一人ひとり「今年こそは」という夢や目標をもったことだと思います。その夢や目標の実現に向けてコツコツ努力する一年にしてほしいと思います。


3学期の始業式に、がんばってほしいことを2つ話をしました。1つは、「この一年で学んだことの『まとめ』と次の学年に向けての『準備』をしよう」ということです。今の学年で学んだ新しい漢字や計算、社会や理科で学んだこと、鍵盤ハーモニカやリコーダー、鉄棒の技、ミシンの縫い方等々。できないからとあきらめたり、できないことをそのままにしたりしないで、しっかり復習をして新しい学年に備えていってほしいと思います。

2つ目は、「『ありがとう』や『思いやり』の気持ちを言葉や態度で伝えよう」ということです。「ありがとう」や「思いやり」の気持ちは心で思っているだけでは、なかなか相手に伝わりません。例えば一年間、登下校を見守ってくださった地域の方々に、「おはようございます」「かえりました」と笑顔で、大きな声であいさつをすることで、「ありがとう」の気持ちがきっと届くと思います。トイレのスリッパを揃えたり、ぞうきんやほうきなどをきちんと揃えてしまったりすることで、次に使う人への「思いやり」が伝わると思うのです。靴箱の靴をきちんと揃えておくことで、「ようこそ御津南小学校へ」という思いが、学校に来られた保護者の方やお客さまに必ず伝わると思います。そして、一年間お世話になった教室。「ありがとう」の気持ちを込めながら、次の学年の友達が気持ちよく過ごせるように、掃除をがんばることで、「思いやり」の気持ちがきっと伝わるという話をしました。心は目には見えないけれど、言葉や行い、態度で「ありがとう」や「思いやり」の気持ちを伝えていくことのできる3学期にしていきたいと思います。

どうぞ今年もよろしく願い申し上げます。

三学期は何を
がんばりたい
かな？



三学期は漢字
の字をきれい
に書くのを
がんばるぞ!

障害のある方の立場に立って（5年生）

5年生は、総合的な学習の時間に福祉について学習をしています。1学期から車椅子体験を通して、障害のある方や介助する方の置かれている状況について理解するとともに、バリアフリー社会の実現に向けて大切なことは何かについて考えてきました。疑似体験装具（ヘッドホーンや特殊眼鏡、手足の重りなど）を装着して、日常生活動作を擬似的に体験することにより、加齢による身体的な変化（筋力、視力、聴力などの低下）を知り、高齢者の気持ちや介護方法等を体験的に学ぶことができました。また、アイマスク体験では目の不自由な方はふだんどのように歩いているのかを学び、実際にアイマスクを着け歩く体験をしました。見えないだけでとても怖くなることや、介助者がいることで怖くても前に進むことができることを子どもたちは感じたようです。この体験を通して、日頃から自分は何ができるかを考えることができました。

そして、2学期は「障害のある方が、学校に来られても安心して過ごせる環境にしたい」ということで、特に目の不自由な方に焦点を当てて学習を進めてきました。学校には点字がないので、来られても不自由な思いをされるだろうということに気がきました。そこで校内に点字シールを貼り、安心して過ごすことができる学校にしたいという思いで、代表の児童が校長室に相談にきました。子どもたちが体験したことや図書資料、インターネット等で得た知識をもとに、自分たちに何ができるか一生懸命考え、実際に行動に移せたことは本当に素晴らしいと思いました。今、校内にはいろいろなところに点字シールが貼られています。そうした活動ができる子どもたちを、私は誇りに思います。



冬休みの初日の12月25日に図書館開放行事で、恒例の「お飾り作り」をしました。よい藁を選び、水につけ、木づちで打って柔らかくし、縄を編んでいきます。毎年参加している高学年はさすがととても上手で、手際よく編んでいきます。小さい学年の子は、先生やおうちの方に教えてもらいながら頑張って編んでいました。

昔から、毎年お正月には「年神様」と呼ばれる神様が各家庭へ訪れると言われていています。年神様は特定の宗教による神様ではなく、その年の福や徳を司る「歳徳神」や祖先の霊、穀物の神といったいくつもの神様がひとつにまとめられ、民間信仰として伝わってきたものだと言われています。家の門や玄関につけられるしめ飾りは、神社で見られるしめ縄と同じように、神様が宿る場所の印です。災厄を払うものだとも言われ、伊勢地方などでは素戔鳴尊が当地を訪れた際の民話とともに、一年中しめ飾りをつける慣習が残っています。こうした日本の伝統文化を伝えていく機会をこれからも大事にしていきたいと思います。

お飾り作り

